





1032
52

56-4071



上古俳諧

二五現王山堂社十句

鳥乃二う羽とくは好う

関白前大后

鶯能あを色の勢を海のあ

るまはきりてあつらふ

兼阿上人

鳥乃子れは川流の果もあ

らうあまの現恋紙もあ

淡人不知

アサキ

横山重

おくしりし事くは驚かす人
只一時の事なり

お大納言の言氏
よみし百年蝶と云ふ人

前大納言の世
糸極のぬきしは

と仰るは世に
人の中

症乃しりも
名いありしは

藤原重宣

白路し志りしは
あふふと叶ふ時

周阿法師

月あやまの
そくしりしは

藤原信藤

お成りしは
月のまふふ

救済法師

然りとて心うか木あきく龍吟く
阿弥後講をむかひのりて
常のちり入まき及龍吟の人
乃中り

松樂にゆきよひるも凡のりて
とゆきよ 弘明法師

空ら花乃ち好あきら—
法勝寺む見ゆきよ人酒
さし

山櫓らき及海うのまきく龍

とゆきよ 法眼顯明

龍—志をそや風をよくらん
若に—れぬ子成うあくら
—人—

我海よ—り乃竹の社を山—
きんまはるもあきく成ふま
お天納言為氏

ちよあおの蟬—とおもひり
くしりしなひ及あきく—
良何法師

舟人乃其家扇也
とくあるは繩を結ひしりゆ

二品親王

麻の中しもの忍らひありし字
あぢ人お頼の上流の村り山
を過終つしつらめ山もあは
忍て連つたせしつらめ山

平田政頼信

あし乃つらゆしつらめ山
あぢ人お頼朝

じろつらふしつらめ山

あしに舟りつらめ山

紀貫之

あしつらめ山

夕つらめ山

道安法師

校に推本成りつらめ山

園白報恩寺とて百約連字

ゆかりに

弓小はつらめ山

素阿法師

まへうら竹を里り一船寄る

右乃こりり一舟千鳥あくる

と云句よ

頓阿法師

釣針の掉りくく結々勢よ

4一里控糸は巻山ぬ糸

淡人不知

裁きゆき道乃菊よつりまをそ

人を秋正は裁きゆき

藤原親孝

無路や木の葉れくふあまり流ん

雲り一住と及流るあまり

く見人しり

うら草紙のまをり及流る水の月

うら草紙や人の弓をりあまり

法下通流

山ふくまの立枝よ系りりて

是迄もくくし流る時をそ

素阿法師

十月まをりて秋をりり

人乃分て其の道も及んぬれ

平竟重

拙者引ふ来れは其のふくむ成りて
あやしくもひきまわすの事なり

実方釣信

あー乃乃あに雪やゆき多し

死に家なすに札を付てお供の
甲と思ふは誰かか

とゆふふ 良心法師

水鳥とつひあううう見ふ人あま

漁民物語巻ふとむと娘を

賊物とゆふる事あり

お祭乃をうらなすまじ

お入納言の家

おぬあひひれ言わぬ神世月
淡路の國を浪乃をさし

権少僧坊永運

新あま月とあまの二つあ
乎れとてた今もつた

関白及大臣

古能身成及一人及神一也
不可と申さるる我乃身成

導卷法師

子も實之六時のうちに定りて
金とてさるくつとて

救済法師

あめ妙らつとてあつとて三山川
此も及終心青葉のつと

藤原長泰

苗の石能一飯のつとれぬやと

千と妙や終りのつとあつと

救済法師

是つと山ある國のな成まひの
古とて終一年くの救

尺と妙の善成

富士能妙成の子上つと山と及
後醍醐院清時節舎れん

清鈕をさつとけり

養人清藤

以とて成誰はあまふと

上三

紀家基

力と及ぶくうし甲乙あきくを
きき一とられぬ成りて

六条内大臣

ひたたくと袖の袋をとてうた
みもたふす柳の眉はうらみ

燕歌法師

岸の額とあきよしと見え

考衡証討のるよ奥別へん

ゆらり村名丸川と海をて

お右大臣頼朝

我ひとちきよらうとふふ川

平家時

名も流るふらうとふふ

先かあつひてふふ川

後醍醐天皇

初瀬川くちたすくぬ車

らふくになまふふ川

本徳法師

松もたあきく川を

貞任家但衣川の城を築けり
と世にけりてくまゆゑ

源義家朝臣

いふも結きていふもあひふもあ
とゆもよもいふもあけりて

あつ貞任

年をゆへ一糸のみを運り昔あふ
いふもあもあも袖ぬりて

順光法師

うもあゆのあゆをいふもあ

よもあゆのあゆをいふもあ

妙範上人

竹よあゆのあゆをいふもあ
十にいふもあゆのあゆ

良阿法師

あゆの子れあゆのあゆをいふもあ
あゆのあゆをいふもあ

友原宗考

二度あゆのあゆをいふもあ
あゆのあゆをいふもあ

本徳法師

邦山と申すは富士と云ふは分て

法の人より一とてのありけり

藤原俊成の

人より此川舟より一と云ふ

その法乃て其も云ふ云ふ

救済法師

教の道は心と云ふ法は心と云ふ

ありて一と云ふは心と云ふ

源頼義の

乱は藤原と云ふは藤原に云ふは

遠久元年上洛して行ひし時

漢名橋乃宿ふつてて酒を

てまゝにとりて

お右大臣の

らへてそのまゝに云ふは

平親時

たつて海山乃と云ふは

徳聖へまゝに云ふは孔子の山

と云ふ所なり

鴨長明

く乃山きき道しあふまをねま

澄心法師

あふはらまをれくもろあふ

膳西上人雲居寺極樂堂

住ゆる時坊を少せり然分て

しるまの屋をいさくしにあり

こい建をれ

決人不知

あらのまもわてやゆさうしあふ

皇居まのまひあふ國乃もふ

西より物さんしりまふ

おさあふれ人してまあつて得

る

後教現正

やら水乃あらもゆてかろ好く如

後よ女房の語て是とえ付は

とすをれいく之とす

藤原顯國御書

まてあふ人よ好く海はしりまふ

あふさくをあふしり好く

あつ納之る氏

新ふあきらけ管海の言状をよむ

又見ゆも海又見ゆも

読人等知

賤乃ちゆめさあまをて成之無く

ゆめも福やありてを体えん

曰

やまゝれ子にたふかろうら

風と嵐をたうりり言毎

教公法師

上にさ山乃見てふ家らうらに

石の上りてやまゝれ子

救済法師

双六乃自然うらうらふゆいの西文

當の子能山はもきあ

教公法師

花の名れ未一文字やれぬらん

と成文更すもくまぬよああ

社と神乃出ああ

ああの解らこの神乃名

と約するふ十四日よりあつたき
りく人のいそがけりふ付るる
らふ山をうれ森のくもりん
指しおしりなほは旅の走りふと
見ん

とくひて見ゆるひかまひの
平一乗時

契あまはれもくまんこつ母ま
川乃印もかに牛の足もま
読人——

水と海に子か——もおねん
勢乃もまきも然あすむら

曰

魏の中れ妙くくわあるま
つそて然んんんんんんんん
読人——

あふ牛れ家ふひん家淀車
ひつそまなほのひららうんぬ
救済法師

やれ車にうれをう

鎌倉へ下向しゆくふしの道
男は口も山ひよふゆかり

あつちのいそぎやうのやけ
先をゆく 鴨長明

てうらまひの川を渡る人

響の尾れ花のしらぬ
秋風見てもさうかたまる丸
とつひけきき

皇太子のまじり

はまのむらたがゆきまはる

人乃まゆも二子もあれ

淡人不知

強波依波八波の内ふあつち

世中にしよまのりまはる

曰

響れ尾のう花を山に

あつちのいそぎやうのやけ

素阿法師

軒より雨乃あつちのいそぎ

あつちのいそぎやうのやけ

淡人 一 次

曾かか森乃格のけり馬

らま記るるひし山あうひてまら

後教録

まこりの牛と引力

まこ鬼とも成ふり

教公法師

古寺れ物乃うりて毒ひて

まけりの米いへ人乃まら

救済法し

神垣乃庭のま砂をうらまて

まるひ人やま成さくらん

正阿法師

まの戸か花しらくすま成分て

ま成るとま物の中にまのま

まらる成り

淡人 不知

まそれ中にまひらまのま

まらるて曰

まと忍て後りしん

あまをくまのゆに侍ひる人
よふと家らうてあしきうなる

三戸ゆきよ 頼阿法師

頼阿法師のうらまへに
梨次郎のうらまへに

あま納言の家

かきくさねとやけぬあし

とゆふ 安和門院四葉

あまのうらまへもく火燭

廣文のうらまへもく星

西行法師

あまの海のかまの海老

玉童も同修のうらまへ

あまのうらまへ

あまのうらまへ

あまのうらまへ

あまのうらまへ

あまのうらまへ

あまのうらまへ

あまのうらまへ

見とら子れ類りしり文字紙分よ
きりさる杖うむ乃力安礼

救済法師

平人及とや子とてういらん
口公安とてとらふ成とらふ

西音法師

人らひなをけしとてれて
修りし約るふと安良路とて
とて尾とて又山の丸とて力とて

西住法師

世の中いまん及とてう見よとて

西住法師

あうとも安とてとてうら
鯉つとて方あてとてふとて安

カウツとて安とて安とて安

とて安とて安
為家

ふの遊とて安とて安とて安
とて安とて安とて安とて安

順覚法師

引目とて安とて安とて安

起るる氣がらうくは

救済法師

古くは壁まゝの如く大なる

連平なる立在りし始に

とゆふ 従二位の家

ありし處ありてうらむ

已車に方々て我れ見ゆふ

証もあきて云ける

やまてたてしはるる車

前大納言為氏

車とりかゝりたまひきり

夢窓國師西芳精舎にて

乃てありていふは

いふは及ぼすて

と云ふは

救済法師

あまて親もせし

あまのたぬき

書何法し

二本乃松の本

たはふふれししうふれあふ
忍く

舟出なきうのうとつちる

こゆるふ

かうらうや山てまろく藤

風呂に入らり人なを成らひ

きまは

ふら姑うらあきとを成らひ

十仏法師

或也乃姉、少路の湯り入る

曾阿弥父らねよまきとれを成る

えらり

養生法師

あふぬとくく忍道にそあふ

曾阿弥法師

養生姑もの志乃ひらり

人の家れ海に楢乃や方成る

坤へ成るをそとつちるやえぬ

とPゆりまきは

会阿法

布へれとをきそとつちる

口へ反齒了う二つ白丸

守巻法師

雪の上にあーやと起て遊ぶらん
佛さふいら起物をまゝの心境ん

教公法師

極樂から起るわあやういふ事
了れ方の正教をういふ

お中納言定家

人ひけの車うひして山南
みゑあん世もともおうり

靜園法師

伎婆塞の鬼ある火にやあひて

天文博士あひけり人の毒を智
のあきうとうよのあきうとう

中男にゆあひてあひあひ
いさだ 決人不知

あきくし西より杉原朝日如
と云ふれ 曰

天文もせつり忍心ら森
灯をさうきそゆりかきあは境ん

後二位家澄

此水とてもすくもあつて

まふとて人乃神とあはれ

連平師と皆少く物も成ふ

こつひとれん

何本紙とてそ松少は耳ん

あふは及もそれつとあふ

小柳十宣

玉々けあふぬけ紙とあふ

福原のあふ月之海ありけり

登蓮法師 文と物と 著のあふ

と物と

波羅入道とあふ

ふこり見つて又月乃あふ

と物と

登蓮法師

人字ハ子く計と覚ぬ

御あふて人酒を人けり

つてこれと紙あふけり

是ハ左あふまふ

あふ乃あふけり

崇徳院御勅

ちくまのりも結ぶふあし村も
あにきまきねる老成の心

淡人

山も結しひるまも母とて
金のつらりし菊やしくらん

藤原為守

山ちりちりあもとちりちり
禅林寺仙洞ふくむ言詞

こあひの結成にうらり

ときこつてくれ

後西園寺道深

二重りー見ゆかーまうりま

藤原為言知信

うもあふ直結直衣もくたを

年中の直衣のあしり

を結して人に連平を

あつを結して人にあつ

屋上に居てしける

園信下まわりのあ

かゝるものの中、中山より成
中、石で津口と山、ひのち、
作とあり、字、

堀川院御製

雲れより、雲乃之、人乃、ひのち、

後、おつ、まら、れ、中、納、て、國、信、

下、山、乃、ひ、に、ま、ら、れ、
後、頼、朝、御、

下、山、乃、ひ、に、ま、ら、れ、

く、成、ら、る、者、我、乃、成、ら、る、

教、公、法、師、

十、郎、乃、ひ、ま、ら、る、者、中、世、

書、成、引、と、名、の、ま、ら、る、

公、法、師、

思、ふ、と、書、や、る、文、乃、ひ、ま、ら、る、

読、人、不、知、

我、乃、成、ら、る、者、我、乃、成、ら、る、

と、ゆ、ふ、

人、長、乃、ひ、ま、ら、る、者、

こ、ろ、く、と、の、版、乃、ま、ら、る、

川、船、乃、あ、ら、る、者、成、乃、成、ら、る、

常小ゆ人相立集のくりぬき
久方れすあしりゆり

多ふ感て自上下の

舟巻法師

そのすこふまのせいのあき

あつては成平ゆりゆり

ゆりゆりゆりゆり

上西門院無形

ゆりゆりゆりゆり

待賢門院堀川

了子かゝるあやゆりゆり

近年の書

山くは雪のあはれもなれぬ
あはれもなれぬと早蕨

じしん一鏡をんをひてたてて
あはれもなれぬと早蕨

なまもせぬきまもなれぬ
風一柳一鏡をんをひてたてて

平讀の雪ひくも春のさ

等一似て地やうん天龍業

汁の子やあすなろく

あすなろくはあすなろく
世に楊子れあすなろく
楊子れあすなろく

甲子

横山重

